



第 19 号

R1. 12. 6

文責 倉迫

建学 144 年

校内人権旬間①

11月29日(金)から始まった校内人権旬間。授業参観では、年間計画に沿った各学年の人権学習を参観していただきました。今回は、(1)教材名(2)ねらいや学習内容(3)子どもたちの反応等を載せます。

【あおぞら】

- (1) 自分のいいところ みんなのいいところ
- (2) ①絵本の読み聞かせ(トラキチを含め5匹の動物たちが、自分の長所を生かし困難を超えていく話)
②2学期を振り返ろう(行事のスライドショーを見る 担任2人から頑張っていたことを伝える)
③ 感想交流 保護者から
- (3) ①絵本の読み聞かせでは、劣等感を感じているトラキチに対して、「トラキチは、いいところがない。」と言う友だちもいたが、「アイデアを出しているよ。」といいところに注目できた友だちもいた。
②「ぼくも力持ち」と自分のいいところに目を向けることができる子どももいた。担任や保護者(ビデオメッセージ)からほめられたり認められたりすることで、子どもたちも自分と友だちのいいところを感じていた。

【1年1組】

- (1) 「ぼくは小さくてしろい」(道徳科 A個性の伸長)
- (2) みんなそれぞれにいいところがあることを理解し、自分の特徴や良さを見つけて、これからもそれを大切にしていこうとする心情を育てる。
- (3) 子どもが自分の特徴や良さを見つけることができた。また、友だちの良さに気づき、認め合う場面も多く見られた。保護者の協力を得て、家庭からも子どもの良さを伝えてもらうことにより(ワークシート)心情が深まった。

【1年2組】

- (1) 「さるとかに」(人権読本 【にんげん】より)
- (2) 弱い立場の心情を理解し、いじめや暴力に対して絶対に許さないとする実践力を育てる。
- (3) さるのかにに対する態度がいけないことと気づいた。いじめられるかには、どうしたらよいか問い続けたら、みんなで話し合う中で「みんなで力を合わせてやめてと言う。」と考えだしていた。また、自分を見つめ、いじめをしない、いじめを許さないと自分の生活の中で考え、発表したりシートに書いたりできた。

【2年1組】

- (1) ぐみの木と小鳥(道徳科 親切・思いやり)
- (2) ①親切にしてもらって、うれしいことはあるか。
 - ② 「ぐみの木」や「小鳥」は、なぜりすが気になったのか。
 - ③ 小鳥は、「やみそうにない嵐の中」を飛んで行っても「ぐみの実」をもっていく。「ぐみの木」が「ぐみの実」を持たせるわけ。
 - ④ りすにお礼を言われた時の小鳥の気持ち
 - ⑤ 進んで親切に自分ができたこと
- (3) ①日常の授業の中で、生活科の町たんけん、メモの仕方を教えてもらったことを思い出していた。
 - ②りすの病気が心配だし、いつも元気に遊んでいたのに来なくなっていることを心配していた。友だちだから早く会いたい。雨の中でも、また3人で元気に遊んだりできるようになってほしいので、自分のことよりりすのことを考えて、「ぐみの実」を届けに来たことを考えていた。
 - ③18人の子ども一人一人が、日々見ている自分が親切にしたことや友だちが親切にしたことの発表をした。(例：水道の水がこぼれたのを見て、進んで雑巾を持ってきてふいている友だちを見て、すごいなあと思った。また、別の日には、他の友だちも同じ行動をすることができたことなど、見ていた友だちが発表した。)
これからも友だちのことを思い、親切にすることを心がける授業となった。